

随想

第185回

わが国が人口減少時代に
入って初めての新年を迎え
ました。

少子・高齢化の進む社会
では、まず、若者に希望が
持てる環境を実現すること
が、高齢者が安心できる社
会づくりに役立ちます。

そのためには、一定の所
得水準が保証され、生活を
エンジョイできる環境づく
りが大切であります。

そこで、過去20有余年を
振り返ってみますと、順調
に成長を続けておりました
地場産業は、1985年の
ブラザ合意による、急激な
円高ドル安により、陶磁器
輸出が壊滅的な打撃を受け
ましたが、業界関係者は、
この異常事態を懸命の努力
で乗り切られ、国内向けに
見事に転換されました。し
かし、東西冷戦構造の崩壊
による経済のグローバル化

によって、安価な中国製品な
どが大量輸入されるようにな
り、ダブルパンチを受ける形
になりました。

一つの指標として、製造品
出荷額の推移を調べてみます
と、20年ほど前には、本市の
製造品出荷額は、1300億
円弱、そのうち窯業・土石製
品が1千億円余で8割を超え
ておりましたが、10年前には
窯業・土石も微増の1100



億円余となりました。誘致企
業の成果もありまして、全体
の製造品出荷額は、1700
億円余となり、窯業・土石製
品の割合は、7割弱に低下し
ました。

その後、前述のように、安
価な中国製品などの大量輸入
により、地場の窯業・土石製
品の出荷額は半減し、最近で
は、全体の製造品出荷額12
00億円の約半分の600

億円余となっております。

ちなみに、平成17年の工業
統計調査の速報値によりまし
と、製造品出荷額は、土岐市
が1218億円余、旧多治見

市705億円余、瑞浪市39
3億円余、旧笠原町が352
億円余となっております。

さて、東海環状自動車道東
回りルートの開通で、沿線の
企業立地が活発化しており、
本市にも有力企業の引き合わ

上で重要なことは、優秀な人
材の確保であり、いかにして
人材の確保を進めるかを、み
んなで考え、知恵を出し合う
ことが重要なポイントであり
ます。

地元に安定した企業があれ
ば、Uターンの可能性も高ま
ります。

ところで、最近の地方都市
では、娯楽の場がパチンコ店
しかないというのが社会問題

化しております。

「人こそ地域活性化の鍵」

―若者の定着と迎え入れを!!―

土岐市長

塚本保夫

健全で豊かな文化性のある
娯楽と、多様な余暇を楽しめ
る環境が求められる時代とな
りました。

東濃研究学園都市構想にお
いて、健全な娯楽施設の必要
性が求められ、現在、温浴
施設やシネコン（映画館の
集合体）、ゲームセンターな
どなどの整備を検討中であり、
実現の可能性が高まっております。

東濃研究学園都市構想にお
いて、健全な娯楽施設の必要
性が求められ、現在、温浴
施設やシネコン（映画館の
集合体）、ゲームセンターな
どなどの整備を検討中であり、
実現の可能性が高まっております。

ますので期待をされていると
ころであります。

これが実現すれば、本市
には、陶芸あり、温泉・フ
ィットネスクラブあり、ゴ
ルフ場あり、芸術文化セン
ターあり、そしてシネコン、
ゲーセンあり、プレミアム・
アウトレットモールもある
ということ、都会生活と
田園生活を同時に楽しめる
健全な環境が整います。

前述いたしましたように、
有力企業数社の進出の可能
性が高まってまいりました
ので、若者に魅力のある街
づくりを進め、活力ある地
域社会を築き上げるため、
当面は、製造品出荷額を過
去のピークを超える1800
0億円を目指し、中・長期
的には、3千億円を目標と
しなければならぬと考え
ます。その基盤は、出来上
がりつつあり、人材の確保
が不可欠の要件であります。
土岐で生まれた有能な人
材が、故郷土岐で活躍でき
るよう、みんなで力を合わ
せようではありませんか。

特に、企業進出が進みます

特に、企業進出が進みます